

早咲きの桜被災地へ

箱根の「勝手に応援隊」「宮城野」が縁、苗送る

東日本大震災の被災地を支援する箱根町宮城野地区の「勝手に応援隊」のメンバーが15日、同じ地名の仙台市宮城野区に向け、早咲きの桜「春めき」の苗5本を送った。4月にはお返しのみやぎノハギが宮城野区から届く予定で、応援隊長の茂村ひとみさん(67)は「お互いの花が咲くことで、震災を風化させずに語り継いでいける」と、「宮城野」の縁を大切にしている。

箱根町の旅館で働く茂村さんは、被災者を励まそうと2012年から同市宮城野区の仮設住宅で人形作りを教えてきた。

昨年4月、仮設住宅の男性から「お礼にみやぎノハギを贈りたい」との申し出があり、茂村さんらは「そ

れならこちらは『春めき』を贈ろう」と話し合った。翌5月に大涌谷の火山活動が活発化。箱根観光への影響が報道で伝えられると、仮設の住民たちから励ましのメッセージや七夕飾りが届き、絆がより深まったという。

「春めき」は南足柄市で農園を営む古屋富雄さん(63)が品種登録する早咲きの桜。ピンク色の花が咲きこぼれ、独特の香りがする。事情を知った古屋さんが格



安で苗を提供した。苗は津波被害を受けた公民館跡地に18日に植樹され、茂村さんたちも駆けつける。咲くのは3、4年後。苗は毎年送る予定だ。「春は仙台で春めきが、秋には箱根でみやぎノハギが互いの友情の証しとして咲き誇ることでしよう」と茂村さんは喜んでいる。

古屋富雄さん(左)から早咲きの桜「春めき」を受け取る「勝手に応援隊」のメンバー

(15日、南足柄市で)